

Disney Internship Program を通して

総合科学部 社会総合科学科 3年
後藤 彩華 (ごとう あやか)



シンデレラ城内のレストランでの就労の様子。

私は、昨年の2月から半年間、アメリカのフロリダ州にあるウォルト・ディズニー・ワールドでのインターンシップに参加しました。大学入学以前から留学に対する関心は高かったものの、様々な留学プログラムがあり、どれに参加すべきか迷っていました。そんな時に、このプログラムに出会い、思った。せっかくの留学を机に向かうことに費やすのではなく、英語で仕事をするを通して多様な価値観を学ぶことができる点に魅力を感じ、応募を決意しました。

書類選考と面接を通過し、いざ念願のアメリカへ！しかし、拙い英語で仕事をするには私の想像をはるかに上回る過酷さでした。最初に働いていたのは、シンデレラ城の中にあるレストランです。当時の私は、基本的な日常会話をするのが精一杯の英会話レベルでした。しかし、実際に働き始めて求められたのは、接客のための英語。加えて、私が働いていたのは、夢の国ディズニー・ワールド。普通の接客英語ではなく、夢の国のキャストらしい話し方を習

得しなければなりません。幸い、同僚に恵まれ、絶対に押さえておくべき表現やアメリカンアクセントを覚えてもらいました。次第に職場になじみ、英語にも少しずつ慣れていくことができました。二つ目の職場は、クイックサービスのレストランでした。このレストランは、世界で2番目に忙しいファストフード店の記録を持つレストランで、忙しくない日は一日もありませんでした。私にとっては毎日繰り返されるパークでの仕事ですが、ゲストにとっては、パークを訪れる日は特別な一日です。一秒も無駄にしたいと思いついて、ファストフード店を選び来店しているのに、ゲストからの「食事の提供が遅い」というクレーム対応をすることが一日に何度もあり、ゲストと格闘しているような感覚を毎日感じていました。また、この職場では、深夜2時までの夜勤や12時間のロングシフトがあり、仕事を休みたいと思ったことも多々ありました。

大学に通っている時とは比較にならないほど忙しく、ホームシックになる暇もありませんでした。このように、毎日忙しく、苦しくもある生活でしたが、今となってはその大変さすらも愛おしく感じられる半年間でした。帰国して半年たった今も、あの大変だった日々々に時々戻りたいと願うことがあります。仲のいい友達と、深夜のバスの中で大声で歌いながら帰ったり、時にはシフトに文句を言いながら閉店作業をしたり、苦楽を共にした友人がいたから、私にとってこのプログラムは最高のものになりました。全てのキャストは「Create Happiness, 100% Make a Magic」をモットーに働きます。それぞれが持つバックグラウンドは違っても、同じ信念のもと働き、心を通わせた経験は一生の宝です。



同期の日本人学生と集合写真(筆者:中央右)。

My Life in Tokushima 偶然のような出会いは 運命だった

大学院総合科学教育部 博士前期課程 2年
Galimzhanov Yerzhan
(ガリムジャンフ イェルジャン) [カザフスタン]



私は2013年に日本へ来ました。福岡教育大学の「日研生」プログラムで一年間滞在した後、カザフスタンへ戻り大学を卒業しました。その後、文部科学省国費留学生制度に合格しましたが、臨床心理に興味があり「ひきこもり」について研究してみたいと思ったので、指導してくださる先生を探すことになりました。日本で大きな問題になっていることですが、こ

の分野で研究されている先生を見つけるのは難しかったです。幸いにも徳島大学の境先生と連絡が取れ、2016年の春に徳島へ来ました。実は、四国についての知識はあまりなく、来るまではどういところかイメージも湧きませんでした。しかし、実際に来て自分の目で見ると、とても素敵どころだとわかりました。カザフスタンの大学では臨床心理学を専攻していなかったのですが、2年間、徳島大学で研究生として臨床心理について勉強しました。様々な授業に出席し、徹底的に心理学を学びました。また、ひきこもり問題に関する全国調査にも参加しました。私の主な担当は数千人にのぼる調査協力者への質問紙



修士課程の友達とボーリング(筆者:前列左側)。



2018年度から所属の福森ゼミでの新歓合宿(筆者:右端)。



2017年度まで所属していた境ゼミ(筆者:後列左から3番目)。

の準備でしたが、この調査を通して実際に自分が「心理学の研究に参加している」ことを感じることができました。

徳島大学での3年間は楽しいことばかりではありませんでした。2年間お世話になっていた境先生が他の大学に移動されることを聞いたときは、これからの研究活動をどうしようかと悩みました。国費留学生の私は研究テーマを変えることができないというルールがあるのですが、大学院をあきらめよう、ここには居場所がない、と思った時期もありました。しかし、現在の福森先生が指導してくださることになり、当初からの研究を続けることができるようになりました。

生活では楽しいことがたくさんありますが、辛く感じる時もあります。でも、そういうときに大学のスタッフや先生方、そして友達が励ましてくれるので、安心して前に進むことができます。

大学院を修了した後、経験を積むために日本で臨床心理士として働きたいと考えています。私の夢は、悩みを抱えているクライエント一人ひとりのために、少しでも力になることです。その後、国へ帰って活動するか、日本に残るか、また全然違う国へ行くかもしれません。社会で生活する人間として、自分が役に立っている場所であれば、どこへでも行って生活したいと思えます。

大学院を修了した後、経験を積むために日本で臨床心理士として働きたいと考えています。私の夢は、悩みを抱えているクライエント一人ひとりのために、少しでも力になることです。その後、国へ帰って活動するか、日本に残るか、また全然違う国へ行くかもしれません。社会で生活する人間として、自分が役に立っている場所であれば、どこへでも行って生活したいと思えます。